



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

運動会の振り返り～山元の子の強み

学校長 前島 潤

さわやかな5月の風を感じる天候に恵まれ、運動会を終えることができました。昨年同様の午前開催でしたが、団体競技を一種目増やして内容の充実を図りました。子どもたちは開催に向けて4月から一生懸命準備してきました。運動会を行う意義は、体力の向上を目指すだけでなく、準備や練習の過程で、子ども一人ひとりがどう取り組み、どのような成長を遂げたのか、自ら振り返り、これからの自分に生かすことにあると思います。子どもたちの振り返りを一部紹介します。

- かけっこは、もっと力をだせたとおもいます。らい年は、リレーのせんしゅになりたいです。
- はくしゅでなかまをおうえんできたよ。
- 全力でさい後までがんばれたからよかったです。練習で2年生のペアにチェッコリのおどりをおしえたのが助け合いだと思いました。
- ダンスは家でたくさん練習しました。「ここを大きくうごいたらかっこいいのか。」と分かったので、本番ではメリハリをとくにがんばりました。
- リレーはみんなの応援があつて思いきり走ることができました。80m走でも力いっぱい走れたかなと思います。もっと手をふってがんばろうと思いました。
- この運動会で「あきらめない」「最後まで全力でやる」ことを学び、これをこれからの生活でいかしていけると思いました。
- 運動会を通して、プレッシャーを感じたからといって、とちゅうであきらめてはいけない、プレッシャーを感じないためには、失ばいしないくらい練習することが大切だということを学びました。
- みんなで一緒にがんばることは、楽しいなと思いました。最後の運動会では、人から言われてやるんじゃなくて、自分たちから進んでやると楽しいんだなということを学びました。

保護者の皆様、地域の皆様には、参観者の人数制限など、感染対策に則った開催にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。また、天候による開催延期にもご理解いただき、ありがとうございました。これからも、本校の教育活動の支えとなってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

話は変わりましたが、4月、今年度初めての朝会で、子どもたちに山元のまちにやって来るツバメの話をしました。ツバメは春に南のほうからやって来て子育てをすること。ツバメは最近数が減っていると言われていたこと。まだ山元のまちで姿を見ないので心配していること。そして、ツバメを見たら教えてほしいと伝えました。すると次の日から、子どもたちによるツバメ情報がたくさん集まりました。せっかくなので、学区地図を校長室の扉に掲示し、ツバメを見たら赤のシールを、ツバメの巣を見たら青のシールを貼ることで、記録をつけることができるようにしました。その記録は、山元のまちのツバメの様子が見える素晴らしい資料となりました。

ツバメ調査を通して、私は、山元の子どもたちのよき(強み)を再確認しました。

- ① 相手の意図を理解しようと、話を真剣に聞く。
- ② 好奇心が旺盛で、興味・関心をもったことを主体的に調べる。
- ③ わかったことや考えたことを、自分の言葉で積極的に相手へ伝える。

コロナ禍で、人との対話や豊かな体験の機会が減り、コミュニケーション能力など、社会の中で必要な力が弱くなってしまっているのではないかと心配しておりましたが、子どもたちの様子を見て、その心配は小さくなりました。

本校では、社会科と生活科を窓口とした授業研究を行っています。研究で大切にしていることは、対話による問題解決から生まれる温かな人間関係づくりです。ツバメ調査に取り組む子どもたちの姿を見て、「山元小学校は、ぶれずに今のまま前に進んでいこう。」と思いました。

